



日経ビジネスに見る「経済先読み・解説」 217号

経営コンサルタント 栗田 剛志 13.11.25

発行元：m9コンサルティング

<http://www.m9consulting.biz>

このメールマガジンは、今週発売となる日経ビジネスの中から気になった記事を選び、私なりの視点で考えたことについてお伝えするものです。会社での朝礼時のネタ、取引先との会話、同僚との間の話題づくりにお役に立てたらと思い、毎週月曜日に発信いたします。

「日経ビジネス2013年11月25日号 no.1717
『東京五輪点火～駆け出した企業と個人』」より

【目指せ！一億総参加】

2020年7月24日、東京でオリンピックが幕を開けます。

前回の1964年に開催された東京オリンピックの時は私はまだ生まれていませんでしたので、当時の様子を語ることはできませんが、戦後の混乱期を乗り越えて世界3位の経済大国に成長する礎を築く大きなきっかけになったのは事実です。

オリンピック開催が経済成長に大きく寄与するのは、インフラへの公共投資そのものがGDPを引き上げるのに加えて経済全体の生産性が大幅に向上するメリットをダブルで享受することができる点にあります。

しかし、次のオリンピック開催は、国内の基本的なインフラは既に整っており、経済的にも成熟し、なおかつ人口が減少する中での開催となるため、かつての環境とは大幅に異なります。2020年の東京オリンピックの経済効果は、誰にも降り注ぐ慈雨ではないのです。

今週は、7年後に迫った東京オリンピックにどのように関わっていくかについて、考えてみます。

東京都が2020年までに想定する経済効果は、都内で1兆6753億円、その他の地域で1兆2856億円となっています。産業別では、サービス業の6510億円を筆頭に、建設業が4745億円、小売りなどの商業が2779億円と見積もられています。

「7年後の話なんて」と悠長に構えてはいられません。大手企業を中心に、建設、電機、小売、自動車、旅行など、多岐にわたる業種がオリンピックビジネスに熱い視線を注ぎ、既に具体的に動き始めています。

竹中工務店や鹿島は、調布市にできる「武蔵野の森総合スポーツ施設」の受注に成功しました。公共投資の入札はすでに始まっています。

パナソニックは、大型映像表示措置や音響システム、セキュリティカメラなどを、2014年のソチ冬季オリンピックに向けて売り込んでいます。事前に使い勝手を実証することで、次の商談へつなげようとしています。

タクシーの日本交通は、タクシーの後部座席で備え付け端末に英語で行き先を話せば、自動翻訳機能で運転手と不自由なく会話ができる技術革新に向けて、ハード、ソフトの技術者の採用を増やし、IT投資を続けています。英語の話せるドライバーの数も、現在の100人から2020年には1000人へと増やす計画も持っています。

どうやら、スタートは既にきられているようです。

私たち中小・小規模事業者にできることはあるのでしょうか。

オリンピックを機に、大勢の外国人が日本に訪れます。すべての外国人のニーズを既存のホテルが賄えるわけではありません。

米国を拠点に、世界192カ国、3万5000都市で事業を展開する「Airbnb(エアビーアンドビー)」という会社は、一般の人々の自宅を宿泊施設として紹介するサイトを運営しています。

旅先で泊まる場所を探す人と、空き部屋などを活用したい人を結びつけ、ホテルに代わる役割を担います。手軽さと低料金が受けて、海外で急速に普及しました。

仕組みは簡単で、まずは「ホスト」と呼ばれる物件所有者がサイト上に自身の家や部屋を登録します。部屋の写真や立地、料金等の条件を見て、宿泊する「ゲスト」が予約をします。マッチングが成立したら、「Airbnb」に仲介手数料が入ります。

ホテル代わりにになった自宅に外国人を迎え入れ、オリンピック競技をテレビで楽しみながら夕食を共にしたり、近所の散歩やスーパーでの買い物など、日本人の生活そのものを体験してもらうことができ、ホテルや旅館では味わえない「おもてなし」を提供することができます。

個人宅をホテル代わりにするビジネスが大きく伸びる可能性があります。

秋田県の日本酒造青年協議会では、「秋田県を日本の仏ポルドーに」という構想を掲げ、いくつもの酒造会社を巡る「酒蔵ツーリズム」を始めました。

海外ではワインの生産地を巡るツアーが一般的となっていることに目を付け、それを日本酒で実現しようとしています。

今年2月に4組の外国人夫婦を招き、試験的にツアーを実施しました。

初日に最初の酒造会社を訪れ、夜は作り手の杜氏と一緒にプロの民謡を観賞しました。参加者は、手にオチョコを握り締め、遅くまで杜氏の話の聞きいってました。

翌日も違う酒造会社を見学し、100年前の蔵を改造した資料館での食事を楽しみました。地元の一般家庭にも招かれ、最終日は雪に埋もれた秘湯で体のアルコールをゆっくり抜きました。

日本人の私でも行きたい内容です。オリンピックは、日本酒に興味を持つ外国人を地方に呼び込む起爆剤となるのです。

来日した外国人に聞くと、ラーメンが好きだという人が多いことに驚きます。

新横浜にある「ラーメン博物館」では、今年7月、約半数の店舗がイスラム教徒やベジタリアン向けのメニューを開発しました。

厳格なイスラム教徒は、豚肉やアルコールなどを口にしません。となると、豚肉を原料とするチャーシューといった具材も使えず、豚骨スープもダメです。

店舗側は、これまで客ごとに個別対応してきましたが、イスラム教徒が多いマレーシアやインドネシアの観光客が最近増加したのを受け、正式にメニューとして掲載することとしました。

うまみは豆板醤など発酵調味料から取り、チャーシューの代わりに油揚げを載せるなどの工夫をしています。

日本食は、寿司やすき焼き、てんぷらだけではありません。B級グルメこそ、手軽に日本の食文化を知ってもらう最高のメニューなのです。

東京オリンピックという大チャンスが巡ってきました。かつてないサービスや変革を生み出す絶好の機会です。見ていただけではもったいないですし、便乗でも結構だと思います。何もしない手はありません。

ただし、差し迫っての行き当たりばったりではつまらない結果に終わってしまいます。7年後に向けて、そろそろ着手してもいいのではないのでしょうか。

目指すは、「一億総参加」です。